

「文化の学としての出版・編集論構築のための基礎的研究(3)」

研究年度・期間：平成 21 年度

研究ディレクター： 簗 亨
(教養課程 教授)

共同研究者： 山縣 熙 (文芸学科 教授) 長谷川郁夫 (文芸学科 教授) 田中 敏雄 (教養課程 教授) 武谷なおみ (文芸学科 教授) 山田 兼士 (文芸学科 教授)

豊原 正智 (芸術計画学科 教授) 笹谷 純雄 (文芸学科 教授) 出口 逸平 (文芸学科 准教授) 福江 泰太 (文芸学科 非常勤講師)

学外共同研究者： 石塚 純一 (札幌大学文化学部 教授) 川上 隆志 (専修大学文学部 教授) 瀧本 雅志 (岡山県立大学デザイン学科 准教授)

近年いくつもの大学に出版また編集に関する講座が設けられるようになった。しかし、ジャーナリズム・情報学の一環、あるいは文学史・文化史講座の一部として扱われており、その問題の重要性にも拘わらず、各講師の経験、見聞、またその視野に捉えられた限りの問題を講ずるものにすぎないのが現状といえる。出版・編集は学問としては未開拓の領域に留まっている。編集・制作の技術をプラクティカルに教授することはそれなりに意義のあることであるが、大学という場においては、技術教育だけで十分とはいえない。それを支える理念構築へのアプローチが急がれる。

そこで、まずは「書物は一個の芸術作品である。つまり、一個の物体にすぎないが、品性を見え、特殊な思想の刻印を打たれた物体、また意志的な見事な秩序を目指した高貴な意図の存在を暗示する一個の物体である」(「書物および稿本について」)というポール・ヴァレリーの言葉を手懸かりとして、理想の書物を実在化させる編集・出版という機能を、前年度と前前年度の研究成果を踏まえて、

1) 歴史的なアプローチ、2) 文化面からのアプローチ、3) 創造性の観点、

以上三つの視座から下記の要領でさらに複合的に追求した。

1) については

・古事記など口誦(声)から写本(文字)への移行過程に「編集」はどのように機能したかを考察した。

・ゲーテンベルクの聖書印刷を取り上げ、「思想の刻印」といったテキスト発生の初源的な問題から、信頼すべきテキストの成立を目指すための「意志的な見事な秩序」としての、校正、校閲、索引の役割までを問うことをさらに試みた。

2) については、ゲーテンベルク以降、複製技術による書物がどのように文化を先導したか、大量消費、マス・メディアの時代において本とは何か、を問うことを推進した。

ここでは時代を読む力とされる編集における「企画」の意味、そのあり方が対象とされた。

また、本文の器としての書物という観点から浮かんでくる「高貴な意図」としてのデザイン・

装本の問題について、ウィリアム・モリスとアーツ・アンド・クラフツ運動の仕事をさらに調査・研究した。そしてその成果の一端を、〈寿岳文章と「美しい書物」〉展（大阪芸術大学図書館、平成21年9月11日—10月1日）および〈ウィリアム・モリスと私家版：発展期の「ケルムスコット・プレス刊本」〉展（大阪芸術大学博物館、2010年1月7日～27日）において報告した。

3) については、文芸作品成立に関わる編集のはたらきについて考察を深めた。

テーマは多岐に亘り、とりあえずは試み、問題提起のための研究ではあるが、文芸学科のみならず、他学科の関連講座担当者との連携、また学外研究員の協力を得て研究会を開催し、各自のテーマについて報告し論議をさらに深めた。

また、本研究成果の一端は、朝日・大学パートナーズ・シンポジウム「書物の現在—21世紀に出版文化は可能か」（大阪国際会議場 平成22年3月21日）において報告されることになっている。

そして本年度の研究成果に関して、以下の個別研究テーマに基づいて、研究成果報告書を作成することになっている。

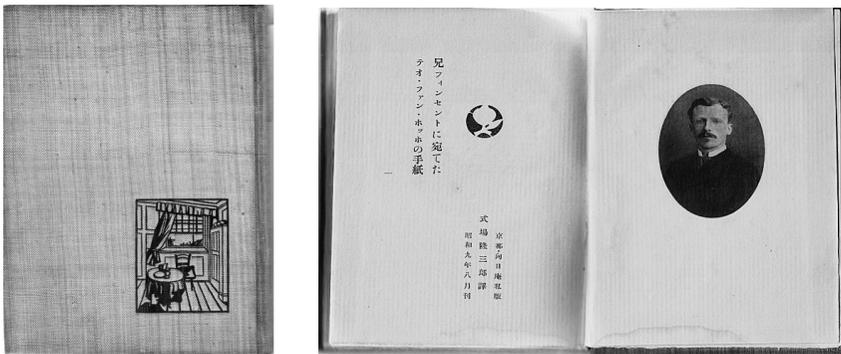
- | | |
|----------|-----------------------|
| 1、山縣 熙 | ・出版・編集の原理論について |
| 2、長谷川郁夫 | ・出版・編集の研究・調査 |
| 3、藪 亨 | ・ウィリアム・モリスと私家版運動 |
| 4、田中 敏雄 | ・近世日本における画譜の出版・編集について |
| 5、武谷なおみ | ・出版・編集とイタリア文学の関係 |
| 6、山田 兼士 | ・出版・編集と現代詩の関係 |
| 7、豊原 正智 | ・出版・編集と映画の関係 |
| 8、笹谷 純雄 | ・出版・編集と美術書の関係 |
| 9、出口 逸平 | ・出版・編集と戯曲の関係 |
| 10、石塚 純一 | ・出版文化史に関する研究・調査 |
| 11、川上 隆志 | ・編集・日本文化史に関する研究・調査 |
| 12、福江 泰太 | ・編集者の視座からの書誌学研究 |
| 13、瀧本 雅志 | ・表象文化に関する調査・研究 |

以上

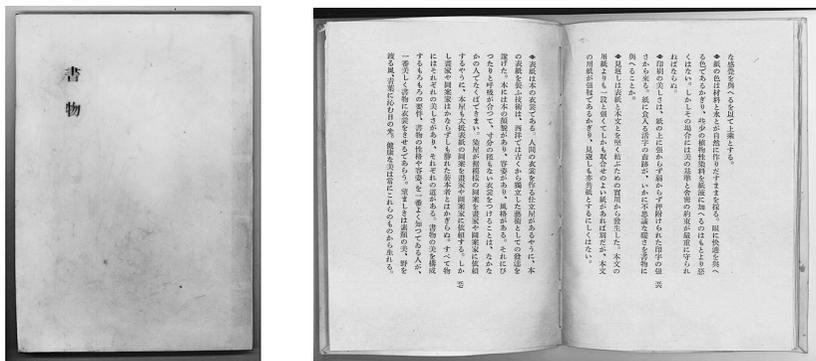
私家版関係資料



ウィリアム・ブレイク著 寿岳文章訳、『無染の歌』、向日庵私版、昭和7年発行。

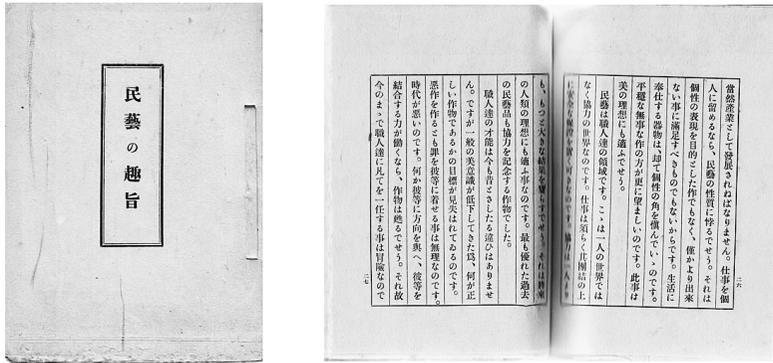


式場隆三郎訳、『テオ・ファン・ホッホの手紙』、向日庵私版、昭和9年発行。

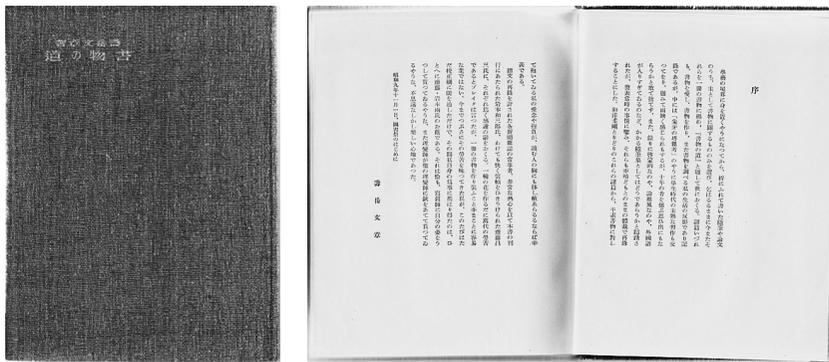


寿岳文章編、『書物』、向日庵私版、昭和11年発行。

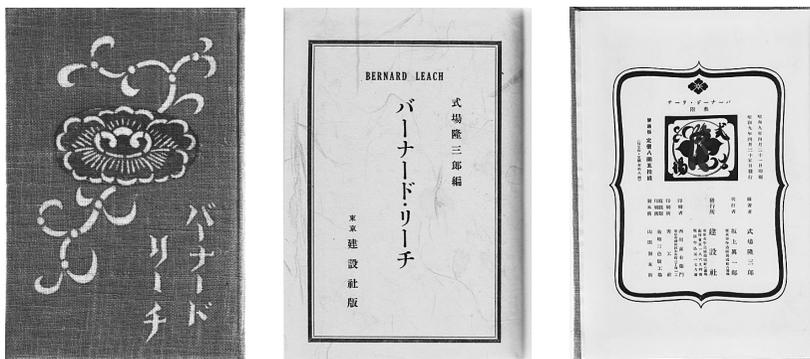
私家版関係資料



柳宗悦著、『民藝の趣旨』、発行者柳宗悦、昭和8年発行。

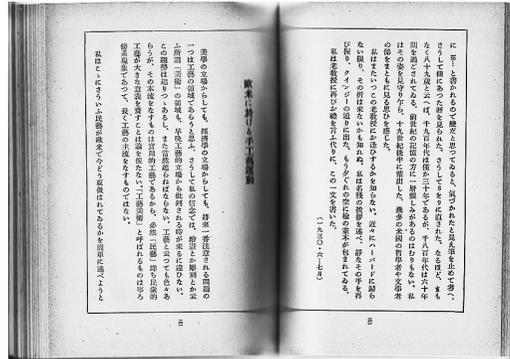


寿岳文章著、『書物の話』、書物展望社、昭和9年発行。



式場隆三郎編、『バーナード・リーチ』、建設社、昭和11年発行。

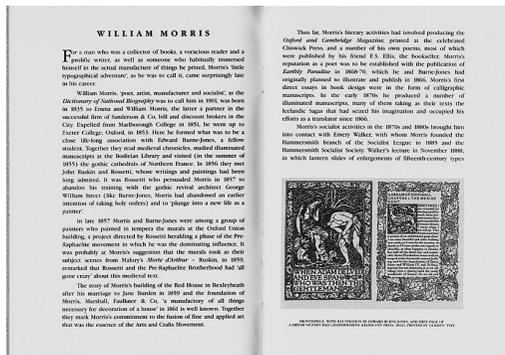
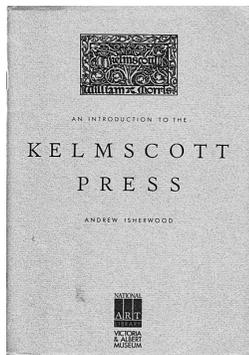
私家版関係資料



柳宗悦著、『私の念願』、不二書房、昭和17年発行。

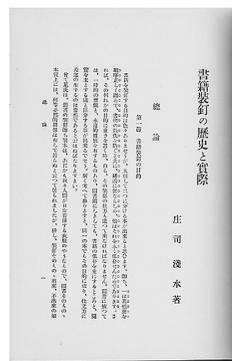
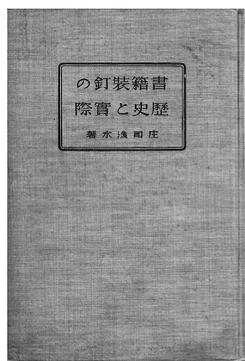


『書物の趣味』第一冊、ぐろりあ そさえて、昭和2年発行。

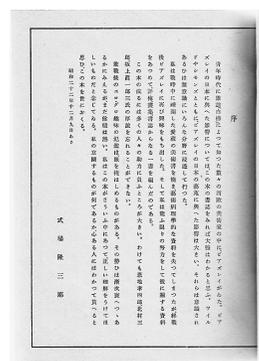


Andrew Isherwood, *An Introduction to the Kelmscott Press*, Victoria & Albert Museum, 1986.

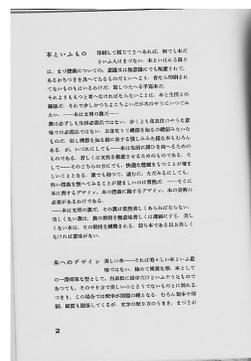
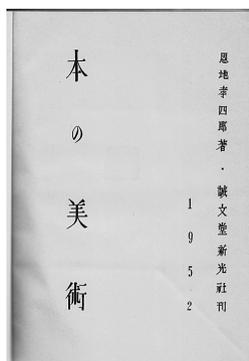
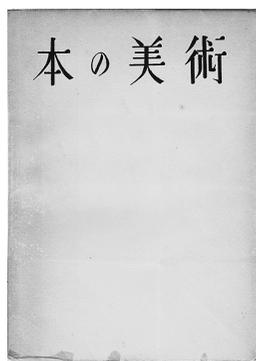
私家版関係資料



庄司浅水著、『書籍装釘の歴史と理論』、ぐろりあ そさえて、1929年発行。



式場隆三郎著『ピアズレイの生涯と芸術』、建設社刊、昭和23年発行。



恩地孝四郎著、『本の美術』、誠文堂新光社刊、昭和27年発行。